

第8回 研究大学コンソーシアムシンポジウム

これからの国際戦略  
と研究力強化

栗澤元一

北陸先端科学技術大学院大学

先端科学技術研究科 物質化学フロンティア研究領域

2025年2月19日

日本橋ライフサイエンスビルディング（オンライン参加）



くりさわ

もといち

栗澤

元一

## 学歴

- 1998年3月北陸先端科学技術大学院大学 材料科学研究科 博士後期課程修了

## 職歴及び研究歴

- 1998年4月 日本学術振興会研究員、東京女子医科大学博士研究員
- 2000年10月 生物系特定産業技術研究推進機構派遣研究員(京都大学大学院工学研究科)
- 2003年10月 A\*STAR Research Entities, Senior Principal Investigator
- 2021年11月北陸先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 物質化学フロンティア研究領域 教授

## 専門

- ドラッグデリバリーシステム (DDS)
- 再生医療
- バイオマテリアル

## スタートアップ

- GM & JAYL PTE.LTD
- InGel Therapeutics
- NeuGel
- GreenT Biomed

# バイオマテリアル研究競争の現状

- トップジャーナル（米国、中国）、日本は2000年以降 衰退
- クリニシャンとのコラボが多い(海外)→cutting edge
- 知的財産に対する意識の違い（エコシステムとの関連）
- 研究マイルストーンに対する意識

## 研究力強化



- 国際共同研究
- 博士人材の質の向上

# 国際共同研究の重要性

- 国内共同研究ではだめなのか？
- 研究に対する価値観の違い
- hard work and execution
- 研究マイルストーンに対する意識
- コラボの拡大、スタートアップ



大学院生や若手研究者に国際共同研究を通じて多様な  
価値観や思想を育む機会を提供する  
(結果としてタフになれることが肝心)



さらなる高みへ-若手独自の視点、日本独自の研究

- 日本の博士人材の質向上とグローバル競争力の強化 (レジリエントな学生・ポストクの育成)

世界で活躍できる博士人材を育成するために、  
日本のメンターが果たすべき役割

- 基礎スキルの再教育 (論文の読解・要約、データ整理、スライド作成)
- 個人的な感想としてアメリカのプロフェッサーは予想以上に教育熱心
- これらのスキルは本物の研究者としてサバイブできる命綱
- 日本の就活環境を何とかしてほしい (研究力低下、国力低下)



基礎力やタフさがなければ海外でサバイブできないし、研究の楽しさや醍醐味を味わえない

# JAISTの新しい取り組み

- 世界トップレベル外国人PIをコアポ雇用-若手研究者の育成戦略)
- 大学院生・若手研究者を自然に国際共同研究に巻き込む

日本の博士人材の質と国際競争力向上に向けた栗澤の想い:

大学院5年での徹底的な教育(鍛える)